

第 2 章 青森県の概要

- 1 地勢・気候**
- 2 人口**
- 3 産業経済**

第2章 青森県の概要

1 地勢・気候

青森県は、太平洋、日本海、津軽海峡と三方を海に囲まれ、北緯40度12分（田子町）から41度33分（大間町）、東経139度30分（深浦町）から141度41分（階上町）の間の本州最北にあり、ニューヨーク、ローマとほぼ同緯度に位置しています。

県土の面積は約9,607 k m²で、全国第8位となっています。また、県土の面積のうち森林面積は6,359 k m²と県土の3分の2を占め、全国第9位となっています。

本県の気候は、冷涼型で夏が短く、冬は寒さが厳しく、四季の変化がはっきりしており、さらにどの季節も自然が美しいことが特徴となっています。また、他の地域と比較して梅雨期の降水量が少ないことも特徴となっています。

一方、中央部に位置する奥羽山脈を境にして県内でも地域によって気候が大きく異なっています。冬には湿った空気が山脈にぶつかり、津軽地方に雪を降らせるため、日本海側は多雪、太平洋側は少雪となります。夏は偏東風（通称：やませ）のため、太平洋側で低温の日が多くなるときがあります。

図2-1 青森県の位置

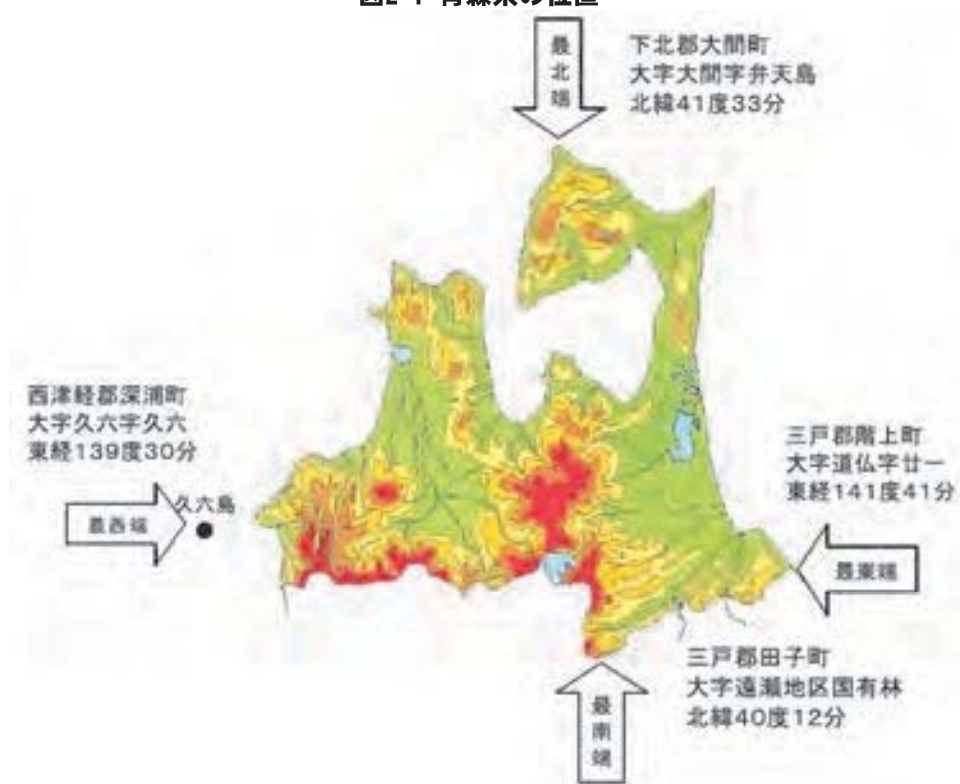


図2-2 青森県（青森市）の平均気温と降水量

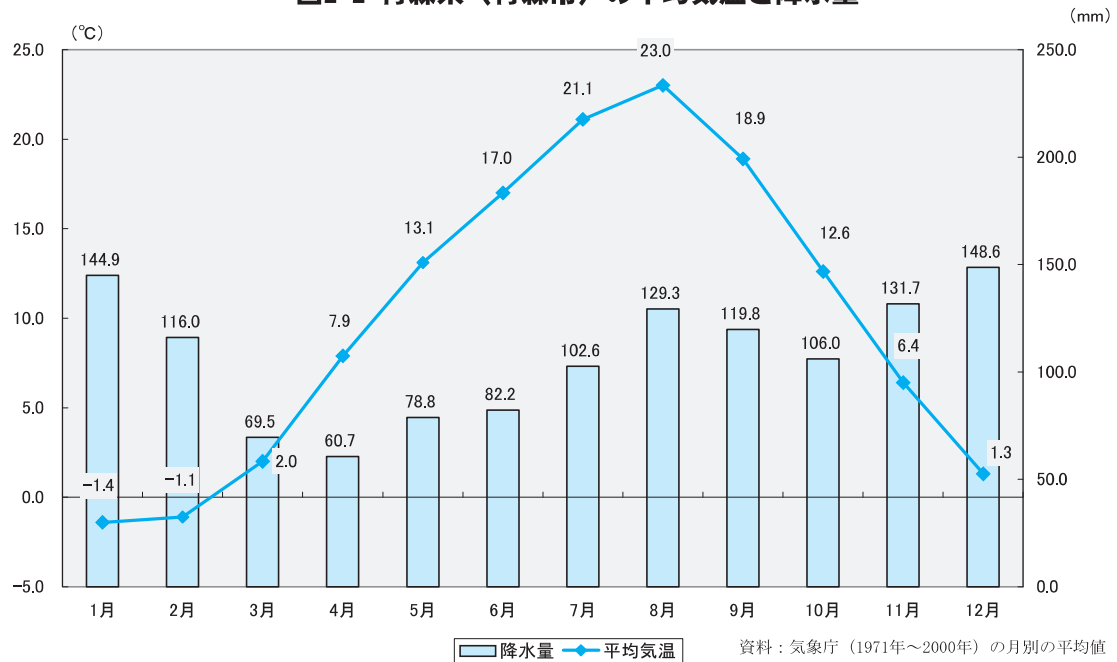
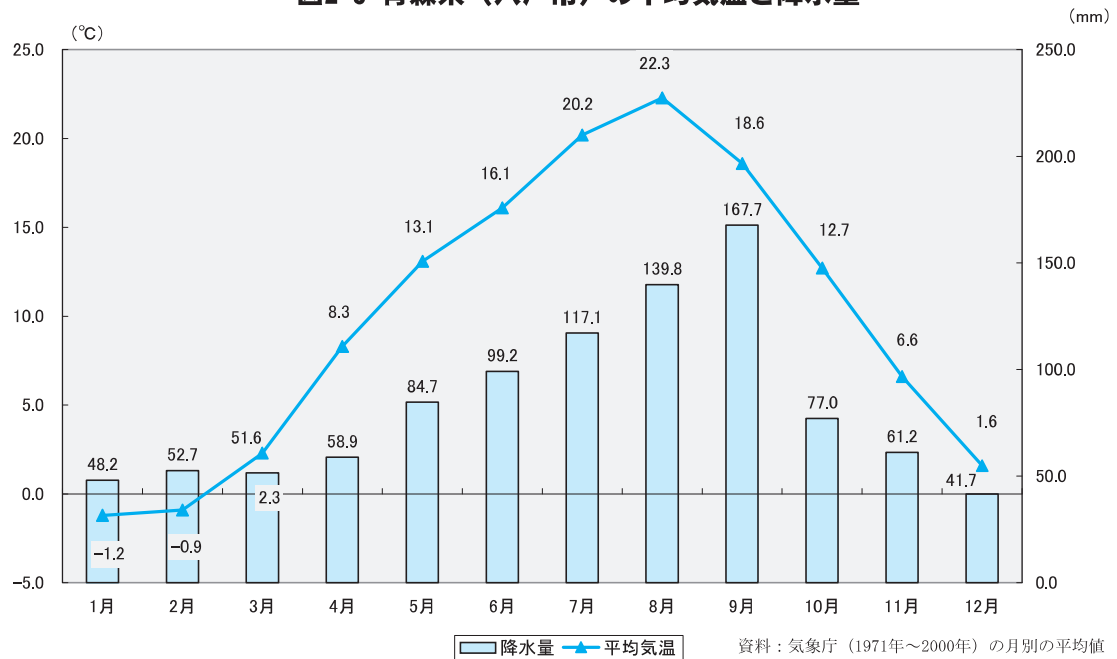


図2-3 青森県（八戸市）の平均気温と降水量



2 人口

平成17年の国勢調査によると、本県の総人口は同年10月1日現在で143万6,657人で全国で第28位、東北6県では宮城県、福島県に次いで第3位となっています。

総人口の推移は、昭和60年の152万4,448人をピークに減少に転じており、平成17年10月1日現在の総人口は、143万6,657人と平成12年から3万9,071人減少し、減少数では全国第4位、減少率では全国第3位となっています。

総世帯数については増加が続いており、平成17年10月1日現在の総世帯数は51万779世帯で、平成12年から4,239世帯増加しています。

平成17年10月1日現在の本県の人口を年齢3区分別に見ると、年少人口（14歳以下）は19万8,959人（総人口の13.8%）、生産年齢人口（15～64歳）は91万856人（同63.4%）、老年人口（65歳以上）は32万6,532人（同22.7%）となっています。

年齢3区分別の人口は、近年、老年人口が急激に増加する一方で、年少人口が減少しており、平成12年からは老年人口が年少人口を上回っています。また、生産年齢人口も平成2年以降減少が続いています。

図2-4 青森県の総人口と総世帯数の推移（各年10月1日現在）

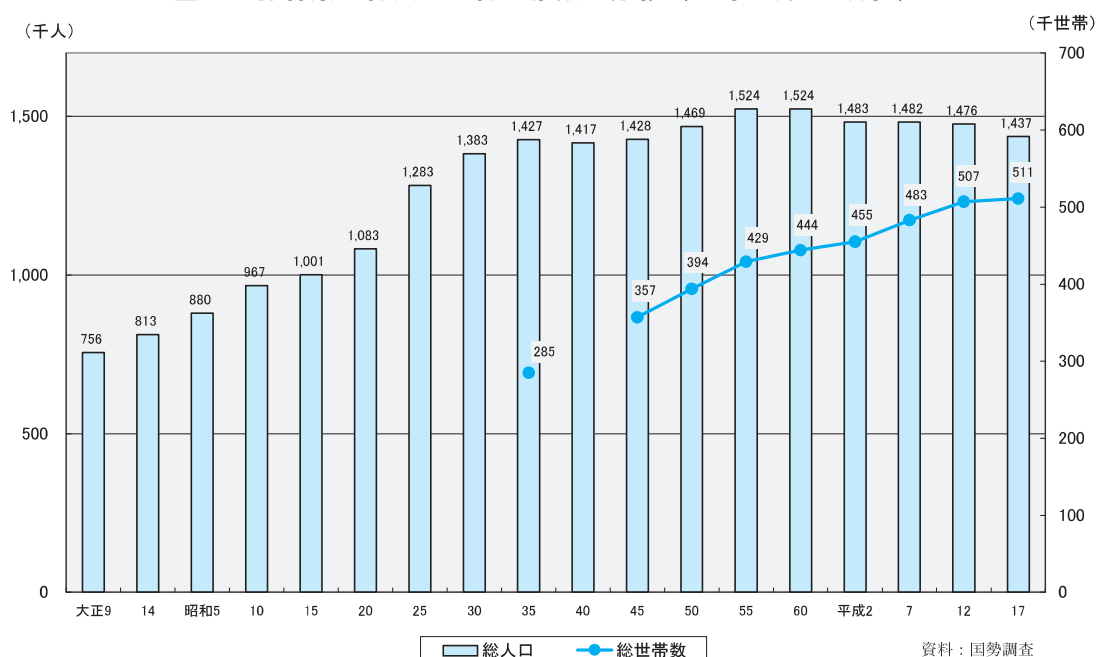
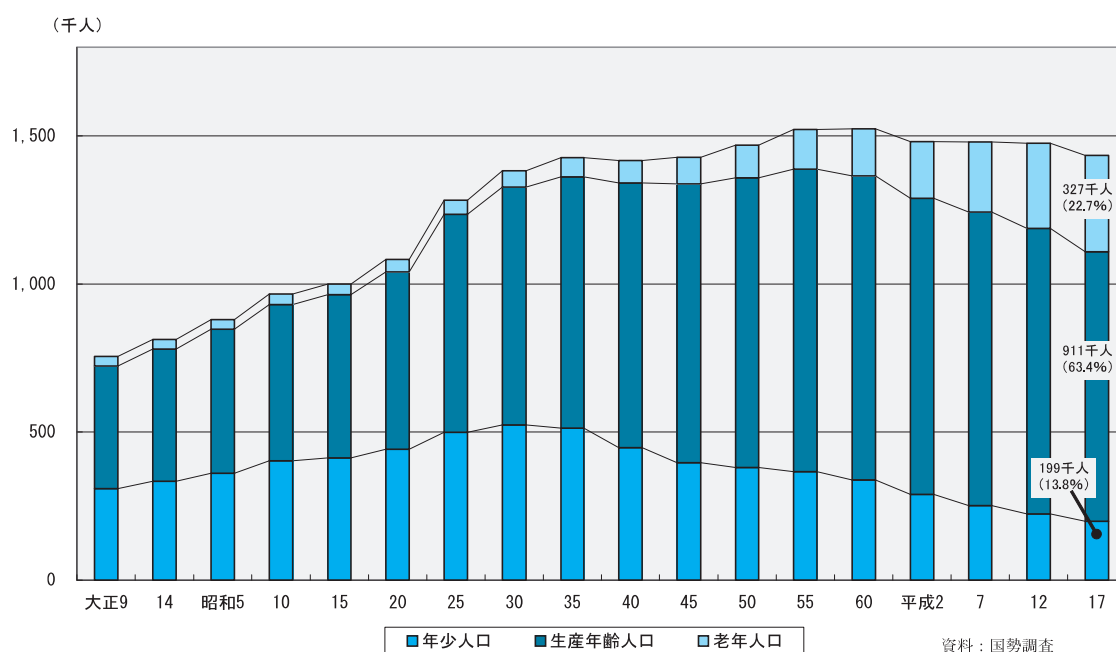


図2-5 青森県の年齢3区分別人口の推移（各年10月1日現在）



3 産業経済

(1) 農林水産業 ～食料供給基地としての青森県～

本県は、農林水産業が盛んであり、平成17年の就業者の割合は14.0%で、全国平均の4.8%に比べて高い水準にあり、全国第1位となっています。

また、カロリーベースによる食料自給率^{※1}は、例年115～120%の水準を保っており、平成18年度では全国で第4位（118%）と全国有数の食料供給基地となっています。

本県では、病害虫の発生が少ない夏季冷涼な気候や生産力の高い農地などの条件を生かし、農薬散布回数が少ない安全・安心な農産物の供給が可能です。また、三方を海に囲まれ、我が国屈指の内湾である陸奥湾を抱えており、海域特性に応じた多様な漁業が行われています。

農業では、りんご、ながいも、にんにく、ごぼうが日本一の生産量（平成19年度）を誇り、漁業では、ヒラメ、イカ類、ホタテガイ、ナマコ類、コンブ類、シラウオ、天然ウナギ、シジミの漁獲量（平成18年度）が全国第1位又は第2位となっているなど、米、野菜、果実、畜産物、水産物の生産バランスがとれた全国有数の農林水産業県となっています。

※1 食料自給率…国民が食べる食料のうち、その国で生産されている食料の割合のこと。計算方法として、重量ベース、カロリーベース、生産額ベースの3つの方法があるが、地域によって生産・消費される食料の品目が異なることなどから、カロリーベースに換算して比較することが多い。日本の食料自給率はカロリーベースで約40%と、主要先進国の中では最低水準となっている。

(2) 商工業・観光

本県の工業は、製造品出荷額では非鉄金属が28.1%と最も高く、他に農林水産物を原料とする「食料品」や、「鉄鋼」・「電子部品」などが主要な業種となっています。

本県の工業の活性化のため、先端技術を活用した産業の育成、農工ベストミックス^{※2}などによる県産資源の高付加価値化の推進、地域のポテンシャルを活用した医療・健康福祉関連産業の創出、「環境・エネルギー産業創造特区^{※3}」を活用した先駆的プロジェクトの推進など、本県の特長や地域力など優位性を活かした「あおり型産業^{※4}」の創造・育成に取り組んでいるほか、自動車関連産業等の集積に向けて、企業誘致等を推進しています。

また、我が国の生活基盤を支えるエネルギー需給において、本県は極めて重要な役割を担っているほか、風力や太陽光、地中熱などの再生可能エネルギーの活用、さらにはエネルギー関係の研究開発施設の集積も進んでおり、エネルギー産業の先進地となっています。

本県の経済は、商業・サービス業などの第3次産業の割合が約78.2%と、大きな比重を占めています。

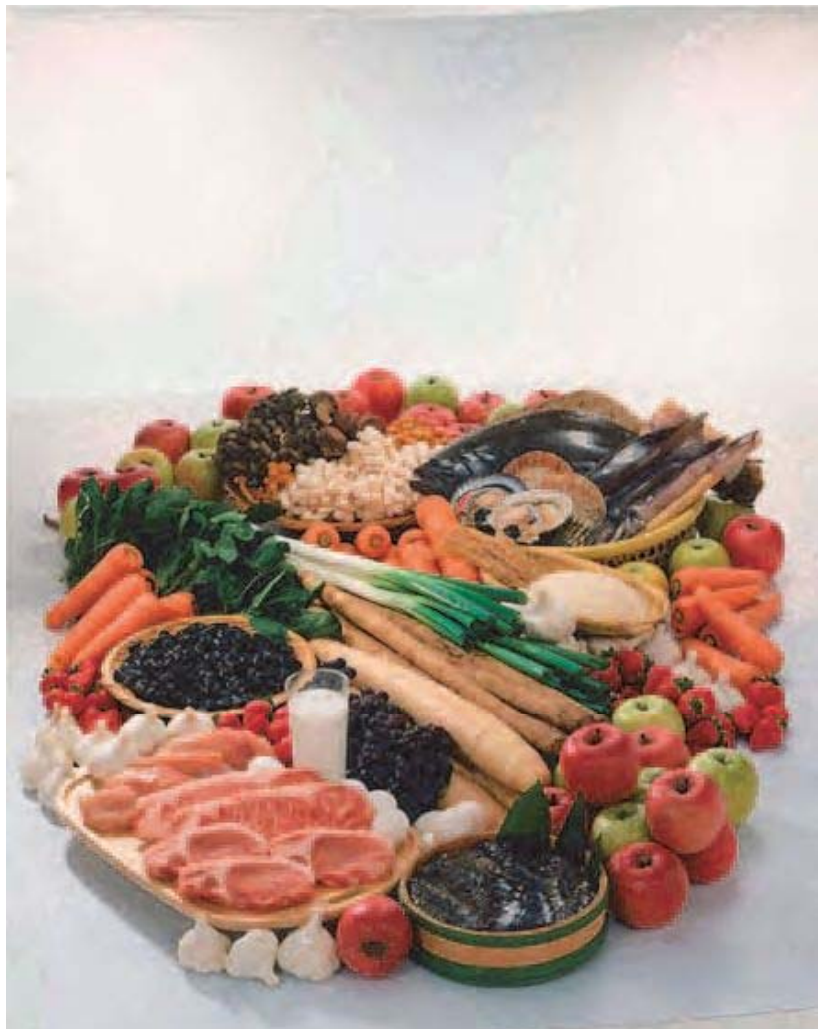
商業では飲食料品関係の割合が最も高く、事業所数や販売額は、全体の約4割を占めており、県では、地域コミュニティとしての商店街を再生するため、商業者と地域住民との連携による新しい時代の商店街活性化、街づくりとしての商業空間づくりを推進しています。

サービス業については、高度情報化・産業支援・文化観光・健康福祉関連の4分野に重点を置き、その振興を促進しています。

本県は、自然豊かな十和田湖や八甲田山^{※5}、世界自然遺産白神山地を始め、その豊かな自然から生み出される農林水産物、三内丸山遺跡に代表される歴史文化遺跡、四季折々の祭りなど、豊富な観光資源に恵まれています。

また、平成22年12月には東北新幹線新青森駅が開業する予定であり、開業によって本県へのアクセスが飛躍的に向上することから、これを最大限に活かし、通年観光をめざして、観光関係者と一体になった取り組みを進めています。

- ※2 農工ベストミックス…ローカルテクノロジー(地域に根ざした技術)を活用した農工の連携・融合のこと。
- ※3 環境・エネルギー産業創造特区…青森県では、あおもりエコタウン構想、むつ小川原ボーダレスエネルギーフロンティア構想、省エネルギービジョン等の環境・エネルギー分野における先進的な取組を進めており、環境・エネルギー産業創造特区においては、むつ小川原地域を中心とするエリアを対象とし、この地域が有する環境・エネルギーに関するポテンシャルを活かすとともに、現在進めている構想、ビジョンとの連携を図りつつ、環境・エネルギー分野の思いきった規制緩和の導入によって、世界に貢献する環境・エネルギーフロンティアの形成を目指している。
- ※4 あおもり型産業…農林水産資源が豊富であることや国際的にも稀有なエネルギー開発拠点が形成されつつあることなどの青森県の特性を踏まえて、重点的に振興を図っていく第2次産業を中心とした産業群のこと。
具体的にはF P D関連産業、先端技術を活用した産業、環境・エネルギー関連産業、農工ベストミックス型産業、医療・健康福祉関連産業のこと。
- ※5 八甲田山…八甲田大岳・高田大岳・井戸岳・赤倉岳・前嶽・田茂范岳・小岳・硫黄岳・石倉岳・雛岳・櫛ヶ峯・下岳・駒ヶ峯・猿倉岳・乗鞍岳・赤倉岳などからなる地域を本計画ではこのように呼称する。



本県の豊かな農林水産物